

船舶事故調査報告書

平成22年12月16日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	転覆
発生日時	平成22年2月20日（土） 10時00分ごろ
発生場所	岩手県釜石市三貫島 ^{さんがんしま} 南西沖 御箱崎灯台から真方位199° 5,050m 付近（概位 北緯39° 18.4′ 東経141° 58.5′）
事故調査の経過	平成22年2月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 LXBXD、船質 機関、出力、進水等	ミニボート（船名なし） 船舶登録等なし、個人所有 2.94m×1.16m×0.48m、FRP ガソリン機関（船外機）、1.5kW未満、不明
乗組員等に関する情報	操縦者 男性 26歳 操縦免許なし
死傷者等	なし
損傷	船外機濡損、燃料タンク流失
事故の経過	本船は、‘操縦者及び友人2人の計3人’（以下「乗船者」という。）が乗り、三貫島の南西沖で釣りを行っていたが、友人の1人が船酔いをしたので、三貫島西側の海岸に着けることとした。 本船は、三貫島の海岸に接近中、同海岸近くで波が高くなったことから、同島への上陸をやめようとして右転したとき、右舷側から横波を受けて船内に海水が打ち込むとともに左舷側に傾斜し、引き続く波を右舷側に受け、平成22年2月20日10時00分ごろ、左舷側に転覆した。 乗船者は、泳ぎ着いた三貫島で救助を待ち、翌21日06時21分ごろ、捜索中の海上保安庁の航空機に発見され、07時16分ごろ、岩手県防災ヘリコプターに救助された。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 東南東、風力 1 海象：金華山沖では、波高約2.5m、波周期9sの波があった。 特記事項： 三陸沖に海上強風警報、岩手県釜石地域に風雪注意報が発表されていた。なお、釜石地域気象観測所の観測値は、平成22年2月21日06時10分に気温が-1.5℃であった。
その他の事項	本船は、スモールボートと呼ばれる船舶検査及び操縦免許が不要なボートであった。 市販されている海事関係の雑誌には、ボートのサイズが小さいので、ちょっとした波の揺れにより即座に不安定につながるものが、スモールボートの根本的な転覆原因である旨記載されている。 操縦者は、本船の定員が2人、また最大搭載重量が180kgであることを知らずに、本事故発生時まで40回近く本船に乗っていた。

	<p>本事故当時、操縦者が釜石市仮宿漁港に本船を車で運び、友人2人を乗せて同漁港を出たが、乗船者の体重を含めた総搭載重量は約220kgであった。</p> <p>乗船者は、救命胴衣を着用していた。また、それぞれが携帯電話を所持していたが、いずれも海水にぬれて使用できなくなったため、救助を求めることができなかった。</p> <p>操縦者の家族は、夜になっても帰宅しないことから、23時59分ごろ、海上保安庁に捜索を依頼した。</p> <p>乗船者は、釣りの行き先を家族に伝えていなかったが、操縦者の知人等が、手分けをして岩手県宮古市田老から同県下閉伊郡山田町までの各漁港に出向き、操縦者の車を発見する一方、操縦者の同僚が三貫島付近に行くことを操縦者から聞いていたことが判明し、2月21日早朝から三貫島付近の捜索が行われた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし あり</p> <p>本船は、三貫島南西岸に接近中、波が高いことから接近をやめて右転した際、右舷側から横波を受けて海水が打ち込むとともに左舷側に傾斜し、引き続く波を右舷側を受けて転覆したものと考えられる。</p> <p>本船は、定員及び最大搭載重量を超えていたことから、乾舷が減少して波が打ち込みやすく、また、船体の寸法が小さいことから、動揺などにより転覆しやすい状態にあったものと考えられる。</p> <p>乗船者は、救命胴衣を着用していたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、三貫島南西岸付近において、定員及び最大搭載重量を超えた状態で右舷側から横波を受けたため、海水が打ち込むとともに左舷側に傾斜し、引き続く波を右舷側を受けて転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>	
備考	<p>本事故発生後、気温が氷点下になった状況下でも乗船者3人が無事救助されたのは、次のことが関与したものと考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 転覆した場所は、三貫島の海岸から10～20m沖であったこと 2 乗船者が救命胴衣を着用していたこと 3 本事故発生後、間もなく食料（菓子パン4個及びおにぎり2個）と飲料水（ペットボトル（2リットル）の水、魔法瓶に入ったお茶、缶コーヒー2本）を入れていたバックが流れ着いたこと 4 流れ着いた本船を、岩に立てかけて風よけにしていたこと 5 海岸で集めた草木等に船外機の混合ガソリンをかけ、所持していたライターで点火し、焚き火で暖を取っていたこと 6 日中、濡れた衣服を脱いで日に当て、日没後は焚き火で衣服を乾燥させたが乾燥しなかったため、焚き火で暖めた石を衣服の中に入れていたこと 	